

仏母のみ寺・慈悲のみ山の

二つ堂花まつり

令和2年
4/7 火
4/8 水
4/9 木

4月8日はおしゃかさまのお誕生日です

二つのお堂で誕生仏をおまつりします



家のおせなに花御堂



子供たちの成長をお祈りします



誕生仏に甘茶をたおけてね♪



甘茶のお接待ありますよ♪

うらかな春の一日
皆さまおさそいあわせて
お参りください

おかしは野の花を
つんで花みどうを
飾ったんだって♪



大本山 摩耶山天上寺

✿花祭りとは

—お釈迦さまの誕生をお祝いする古くからのゆかしくなつかしいお祭り—
花祭りには誕生仏に甘露の甘茶をそそいでお釈迦さまの誕生をお祝いし、あわせて子供たちの息災をお祈りします—ご参拝の皆さまにも甘茶をたむけていただきます—

色とりどりの草花を摘んで、誕生仏(お釈迦さまが誕生されたときのお姿)をまつる小さなお堂を飾るので《花祭り》といい、花で飾られたそのお堂を《花御堂》(はなみどう)といいます。誕生仏は甘茶をそそがれるので甘茶仏・灌仏・浴仏ともいい、《花祭り》は、降誕会(こうたんえ)・灌仏会(かんぶつえ)ともいいます。《花祭り》は、四月八日に、全国の津々浦々のお寺で広くとり行なわれています。(五月八日に行うお寺も多い)

四月八日(又は五月八日)は、古くからわが国では神の日といわれ、靈山に登って花を摘み、神さまを拜んで一日を楽しく遊んだという。そして、持ち帰った花を庭先などに飾り、山の神を田に迎え入れる吉日でもありました

✿甘茶かけの由来

《誕生仏》(甘茶仏)に甘茶をそそぐのは、お釈迦さまが誕生された時に、八大竜王が甘露(不死)の雨を降らせて産湯(うぶゆ)にしたという故事によります。摩耶山の山頂近くにも「産湯の井」があり、いつも霊水が湧き出ています。摩耶山に住む八大竜王がその産湯の井の水を汲んで天竺(インド)へ飛び、その霊水を誕生のお釈迦さまにそそいだという伝説が今に伝えられています

✿甘茶とは

「仏の産湯」ともいう。《花御堂》の中に安置された《誕生仏》に、参詣者が小さな柄杓(ひしゃく)でその頭上にそそぐ甘いお茶のこと。(あまちゃのき)または(あまちゃづる)でこしらえた煎じ汁—花まつりの三日間は甘茶のお接待があります—

✿二つ堂とは

摩耶山天上寺には、お釈迦さまにゆかりの深い二つのお堂があります。この二つのお堂に花御堂をしつらえて誕生仏をおまつりします

金堂(写真上) お釈迦さまが感得(感成)

されたと伝わる秘仏十一面観音を根本本尊としておまつりしています

摩耶夫人堂(写真下) お釈迦さまの生母・

摩耶夫人をご本尊としておまつりしています



摩耶山天上寺の本番の《花祭り》は、1月遅れの**5月8日(金)**に繰りひろげられる**《仏母会・花会式》**(ぶつもえ・はなえしき)です

この日には、お釈迦さまの誕生をお祝いするとともに、生母・摩耶夫人の慈愛の徳を讃えてたくさんの花々をお供えし、日本一大きいといわれている誕生仏に甘茶をそそぎます。そして、いのちの尊さを改めて確認し、摩耶夫人の慈悲とお釈迦さまの智慧の功德(ご利益)をいただいて、お子さまの身心の健全な発育をお祈りします。この会式は全国に唯一つの法会です

—5月8日には佳生流・家元西村公延先生ご一門による献花の儀と、湊川神社ご協賛による巫女の舞いが奉納されます—



仏母会・花会式 湊川神社のお神楽奉納

(令和2年2月)

— 仏母のみ寺・女人高野 —

大本山 摩耶山天上寺

〒657-0105 神戸市灘区摩耶山町2番12 TEL 078-861-2684 <http://www.mayasan-tenjoji.jp>